

# 情報を活かす社会科学習

～ 情報の収集・整理・まとめ ～

明戸小学校

## 1 単元名「農家のしごと」 第3学年（社会科）

### 2 単元の目標

- (1) 深谷市の農産物や農業生産の様子に関心をもち、農家の人の仕事の様子について進んで調べることができるようにする。
- (2) 農家の人の工夫や努力、深谷市の農産物の特徴について理解できるようにする。
- (3) 身近な情報を進んで利用し、情報の収集や整理、発表に、効果的に活用できるようにする。

### 3 指導計画の概要（14時間）

ねぎ作りのようす（教科書の写真）を見て、どんな仕事なのか話し合う。

苗作り、土作り、土寄せ、肥料など

ねぎ作り農家の見学計画を立てる。（教科書、自校のホームページを参考にして）

・農家の様子 ・ねぎ作りの仕事 ・機械や農具

ねぎを作っている農家の見学をする。（クラスで農家をやっている人に協力をえて）

・仕事のようす ・工夫や努力 ・機械や農具（マビカで資料集めをする）

見学してわかったことをノートに整理する。

図書資料や深谷市のホームページからねぎについての資料を集めてまとめる。

コンピュータソフト（はっぴょう名人）を使って発表資料の作成をする。

コンピュータを使ってグループごとに発表会をする。

深谷市の農業の特徴について資料をもとに調べる。

・田畑の広さ ・主な農産物と生産量

ねぎ以外の農産物について調べ、新聞を作ってまとめる。



### 4 情報機器活用の意図・情報教育の視点

一学期の総合的な学習の時間「大げやきタイム」の活動で、デジカメの使い方やコンピュータの操作に触れていたことから課題をつかむ段階から、まとめ・発表まで積極的に機器を活用していこうと考えた。つかむ段階では自校のホームページに掲載されている先輩たちが作ったねぎについての資料が刺激となり、自分たちもコンピュータを使って資料作りをしたいという意欲がわいてきたようであった。

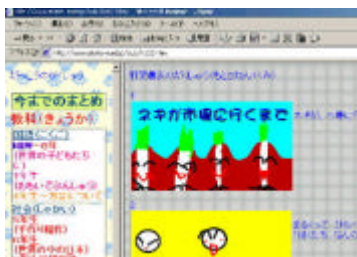
また、深谷市のホームページにねぎについて大変くわしく載っており、ねぎの種類や深谷ねぎの特徴を調べる資料として大変有効であった。

発表資料を作る段階では、プレゼンテーションソフト「はっぴょう名人」が大変有効で、子どもたちも楽しみながら資料作りを行うことができた。1クラス40人ということで、時間的な口数が心配されたが、1グループ（5人）を2台のコンピュータにわけ、それぞれで作ったページをつなげることができたため時間を有効に使うことができた。また空いている台で「一太郎スマイル」を使って写真資料に付け加えて絵を描いて貼り付けることもでき、子どもたちの活動意欲を高めるのに大変役立った。

発表は、プロジェクターを使いグループごとに順番に行った。一斉学習的な発表会であったが、グループごとに工夫された画面が子どもたちの興味をひき、最後まで飽きずに集中して発表を聞くこともできた。発表した資料はそのままホームページに変換できることから、自校のホームページに付け加える予定であることを子どもたちに知らせた。

#### 利用した機器及びソフト

- ・デジカメ8台
- ・一太郎スマイル
- ・はっぴょう名人
- ・プロジェクター



## 5 研究の成果と課題

- ・マビカの使い方も慣れ、農機具やねぎ畑の様子を資料として残すのに大変有効であった。
- ・自校のホームページを意識して、資料作りが行えたため自分たちだけの資料ではなく、相手を意識した資料作りを行うことができた。
- ・「はっぴょう名人」の使い勝手がよく、それぞれのコンピュータで作った資料をサーバーにある自分のフォルダーに保存しておき、あとで一つにつなげるといった一連の操作が大変スムーズに行うことができた。(ソフトの中にあるいろいろなかざりも子どもたちの活動意欲を高めていた)
- ・作った資料を一括して印刷できたため、発表する時のシナリオとしても使え、それをノートに貼って学習記録として残すことができた。
- ・プロジェクターを使っでの発表は初めてであったが、写真資料や画面の変化によって子どもたちの学習意欲高めることができた。(全員がねぎのことを調べたことで、多少の重なりはあったものの反面、学習内容の共有化を図ることができ自分たちの発表と比べることもできた)
- ・発表資料に写真やかざりを容易に貼り付けることができたが、キーボード操作に慣れていなかったため、文字による説明を加えるのに思いのほか時間がかかってしまった。
- ・自分たちだけの学習活動で終わってしまったため、深谷市内の小学校との交流やねぎ以外の農産物調べへと発展的に学習を進めていくこともできたのではないかと今後の課題として残された。

## 6 授業実践概要及び児童の作品(10/14)

学習活動・内容	支援と評価	準備
1 発表する時に気をつけることの確認をする。(時間、発表の仕方、見せ方など)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表のシナリオをもとに4分を目安に、全体で8班の発表ができるようにする。</li> <li>・必ず一人1回は発表できるようにする。</li> </ul>	マイク アンブ
2 ねぎ作りについて調べたことを発表する。 ・1班から順に発表をする。 (1班～8班)  ・一つの班の発表が終わるごとに、発表の仕方やまとめ方についてよかった点をみつけて発表する。	・ <b>ねぎについて調べたことを、わかりやすくみんなに伝えよう!</b> ・コンピュータ画面にあるポインターや指し棒をつかって見せるポイントをしばって発表できるようにする。 ・マイクをつかって、発表の内容が全員の児童にきちんと伝わるようにする。 ・各班の発表が終わって時に、児童の発表をもとに、よかった点を認め賞賛する。 ・発表時間を意識して行えるように、ストップウォッチで時間を計り、評価に加える。	コンピュータ 発表名人
	資料をつくる時のポイント ・資料は、各班必ず6ページ以上つくる。 ・撮った写真を効果的に活用してページをつくる。 ・各班2つのグループに分かれて資料作りを分担して行う。 ・資料に終りには必ず気づいたことや感想を入れる ・できあがった資料の順番を確認して、ページのつなげ方や効果音を工夫する。	
3 本時のまとめをする。 ・発表会をしての感想をノートに書きまとめる。 ・先生の話聞く	<ul style="list-style-type: none"> <li>・机間指導を行いながら、発表の時に認めることのできなかつた児童に声がけをし、よかった点を評価できるようにする。</li> <li>・次時からはねぎ以外の農産物について調べ学習を行うことを知らせ、学習意欲が持続できるようにする。</li> </ul>	